



College report

vol.19
2018.10

東京聖栄大学報



第42回わんぱく相撲
葛飾大会



大学祭のチャリティー金
寄付



かつしか健康食育フェア2017



かつしかの元気食堂



学内奨学生授与式



体育祭



企業説明会(就職対策)

● C O N T E N T S ●

学長挨拶／大学トピックス	2・3
管理栄養学科／食品学科の活動	4・5
研究関連	6・7
学生支援センターの活動／地域共創・食育イベント	8・9

校友会／後援会／聖栄会／人事	10・11
平成29年度決算報告／教育研究施設設備充実募金	12・13・14
大学附属わたなべ幼稚園／大学附属調理師専門学校	15
大学トピックス／学生募集要項	16

学長挨拶



学長
田所 忠弘

2018年問題を機に、日本の大学の生き残りが囁かれている現状に鑑み、東京聖栄大学は本年度2回目の大学認証評価を受診するまだ若い大学ですが、これまで教職協働で学生への教育研究指導を丁寧を実施してきました結果、学生アンケートの満足度が大変上昇致しました。また、お陰様にて入学者定員の確保、中途退学率の低減化、就職率向上さらには管理栄養士国家受験合格率上位大学ランクイン等々大学としての質の向上には目を見張るものがあります。若く小さい大学ながら食の専門大学としての認知度を着実に上げていくと理解しています。一方、ITを含めた技術革新の波は食の根本となっている農林水産業、即ち生産から消費までを総合した「フードバリューチェーン」化にも及んでいます。

食本来の役割は、人と人を繋ぎながら平和の輪を広げ、知恵を享受し合って人類の生き残りのために貢献することと考えられています。しかし、「人にとって食とは何か」を改めて問われると奥が深く、食の役割を極めていく楽しさには、その歴史や伝統、そして食品を得るための生産環境や安全面、調理や栄養の知識、情報や最新技術等々、大学4年間だけでは追いつかないほど学び取るべきものが天空の星数のように存在いたします。そこで、これらを必要とする実践の社会に対して、食を総合的に体系化した所謂食の基本を弁えた専門家となれる人材の育成がもっとも大切な大学の課題かと考えております。食の総合専門大学としての優位性を発揮していくためにも次ぎのステージに向けて教育研究の内容と施設環境の充実向上にはなお一層の努力の傾注が必要なことは無論のことです。

常に人のための食で在り続けることを基本に、食の総合専門家となる人材育成を旨に自信を持って卒業生を送り出すとともにOBを始め地域の人々も再度学びたい大学としての存在感やその意義を常に発信し続けられる大学で在る限り、2018年を契機とした大学の生き残り問題は杞憂に過ぎないと考えています。

大学トピックス

海外研修発表会

平成30年6月19日（火）にオーストラリア海外研修（2月10日～15日6日間）の発表会が実施されました。

海外研修に参加した学生15人が中心となり、オーストラリアでのスポーツ栄養や学生交流についての体験談、日本との食文化の違いや偉大な自然について、スライドショーを用いて説明がなされ、貴重な海外研修であった旨、報告がなされました。

また、田所学長より、「文化の違いや歴史的背景を知ることで、問題についてより理解を深めることができ、将来的に社会に出た際に自分自身もレベルアップできる有意義な機会であったようで何よりである」と結びのお言葉を頂きました。



松本前学長叙勲

春の叙勲で瑞宝中綬章を受章

平成30年4月29日付にて学校法人東京聖栄大学 松本信二理事（前学長）が春の叙勲で瑞宝中綬章の栄に浴されました。

永年に亘る教育・研究活動や学園の発展にご尽力された功績により今回の受章となりました。伝達式は、5月11日（金）に国立劇場で行われ、勲章・勲記は林芳正文部科学大臣より手交され、その後、皇居にて天皇陛下に拝謁されました。

平成30年7月8日（日）には東武ホテルレバント東京にて、瑞宝中綬章受章祝賀会が開催されました。本学園役員、教職員を中心に、約150人が参加し盛大に執り行われたこの祝賀会では、ご来賓の平沢勝栄衆議院議員（本学園顧問）、青木克徳葛飾区長、高野克己東京農業大学学長、本学が復興支援を継続している福島県塙町の宮田秀利町長からご祝辞を頂きました。



松本信二先生のご略歴

【生年月日】

昭和13年3月28日生

【学歴】

昭和35年3月 東京農業大学農学部農芸化学科卒業

平成元年2月 農学博士（東京農業大学）

【職歴】

昭和35年4月 東京農業大学農学部農芸化学科 入職

平成17年3月 東京農業大学 定年退職

平成17年4月 東京聖栄大学 健康栄養学部教授

平成21年4月 東京聖栄大学健康栄養学部 学部長

平成25年4月 東京聖栄大学 学長（平成29年3月迄）

【学会歴】

平成17年6月 日本食品保蔵科学会
（旧 日本食品低温保存学会）会長

【表彰・受賞歴】

平成24年6月 日本食品保蔵科学会 小原哲二郎記念功績賞

【名誉教授】

平成17年5月 東京農業大学名誉教授

平成29年4月 東京聖栄大学名誉教授



福澤理事長 祝辞



余興（ソプラノ歌手）



お孫様からの花束贈呈



松本先生 謝辞



管理栄養学科の活動

平成30年度新入生宿泊研修

新入生90名を迎え入れ、平成30年4月2日(月)～3日(火)の2日間、東京スポーツ文化館にて、グループワークやレクリエーションを通じて仲間づくりをしながら管理栄養士の資格や国家試験対策の重要性、栄養教諭等の資格について理解を深めました。



臨地実習報告会(病院・福祉施設)

平成30年6月23日(土)に、臨地実習(病院・福祉施設)の報告会が開催されました。

この報告会は、4年次生の中から選出された運営委員によって企画から準備、当日の運営を行いました。4年次生は実習内容や得られた成果、今後に向けての抱負を報告し、3年次生及び教職員と情報を共有しました。



葛飾区保健所実習として「かつしか健康食育フェア」に参加

平成29年臨地実習(保健所実習)のプログラムの一つとして「かつしか健康食育フェア」に参加しました。

テーマは、「見て! 聞いて! 測って! 体験しよう!」と題して、パネル展示や体脂肪などの測定コーナー、体操、子ども対象の料理教室等多彩なプログラムで実施しました。実習生はかつしかの元気食堂の紹介をはじめ、住民の方々の食に関する意識調査を担当しました。住民と直接交流できる貴重な体験でした。



研究室紹介

臨床栄養学研究室(宮内眞弓教授)

本研究室は、国立がん研究センターから続けているがんサバイバーシップ研究とがん患者の味覚についての研究を行っています。現在がんは、死の病から慢性疾患へと変わってきています。長い闘病生活を支えるために簡単レシピや味覚について研究しています。今年度のゼミでは、ゼミ生11名と簡単レシピについて研究中です。がん患者だけではなく、高齢者や働くお母さん(お父さん)など幅広く使える献立を研究中。楽しく作り楽しく食べながら国家試験の勉強も怠らず頑張っています。



ゼミ長の講義中



料理研究中



体育学研究室(膳法浩史講師)

平成29年10月より本研究室を担当しています。研究テーマは、加齢に伴う筋量と筋力の減少(サルコペニア)のメカニズムの解明と予防法の開発です。その他には遺伝子や糖尿病の研究をしています。研究成果が我が国の超高齢社会の一助となることを目指しています。

また、ゼミ活動として岡田先生との合同で11名の学生が在籍しています。



食品学科の活動

平成30年度新入生宿泊研修

新入生87名を迎え入れ、平成30年4月2日（月）～3日（火）の2日間、新入生研修が栃木県日光市にて実施され、大学での学びと食品の学びを理解する機会となりました。



福島県塙町から感謝状をいただきました

食品学科が取り組んでいる、震災復興支援活動に対して福島県塙町 一般財団法人「天領の郷はなわ」より平成30年3月に感謝状をいただきました。この活動は今後も継続していきます。



研究室紹介

食品衛生学研究室(伏脇裕一教授)

「食の安心・安全」に多くの人々の関心が集まっております。食品衛生学研究室では、食品および環境中に存在する化学物質について、その残留性や蓄積性の研究とそれらの化学物質の人に対する安全性を評価する研究に取り組んでいます。特に、マウスなどの動物から培養した細胞を用いた発がん性試験を行い、食品や環境中に存在する発がん性物質を明らかにしております。一方、食品中に存在する可能性のある抗がん性物質を検索し、それらの成分を生かした食品への活用についても研究しております。



食品学第2研究室(荒木裕子教授)

食品学第2研究室では食品の機能性や食品栄養成分の分野で研究活動を行っています。中でも、ハーブやお茶、野菜などの機能性や利用特性の研究を展開しています。毎年多くのゼミ生が志願してくれて、いつもゼミ生で賑やかなのも本研究室の特徴でもあります。3年次のゼミの活動は文献講読の勉強会やグループでの研究発表を行いながら、自分の研究の方向性を決めて、4年次からは本格的な研究を行います。本ゼミ卒業生の多くが食品業界の研究室等で活躍しており、ゼミ生たちも先輩に続けと日々研究に精進しています。



研究関連

科研費 KAKENHI

科学研究費とは、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、文部科学省及び日本学術振興会が取り扱っています。

○東アジア調査に基づくベーチェット病、強皮症の特異的HLAが病態に関わる機序の研究 基盤研究（B）（海外学術調査） 研究代表者：竹内 二士夫教授

日本やトルコに症例が多いベーチェット病はシルクロード病とも言われている原因不明の炎症疾患です。強皮症は皮膚の硬化や特異的な自己抗体を特徴とする代表的な自己免疫性疾患です。これら二つの疾患にはHLA（組織適合抗原）と呼ばれる自己と他を認識して免疫に関与する遺伝子が関係している事がわかっていますが、このHLAが病態に関与する機序は明らかではありません。HLAには多くの型があり（多型）、その分布は民族により異なっています。今回の研究は、前年度に引き続きHLAの型を疫学的に明らかにし、病態形成における役割を計算化学的、免疫学的に検討する研究です。そして、食物アレルギーの研究や、薬剤の開発にも役立つ可能性がある研究手法であると考えています。

○HLA-ペプチド親和性の網羅的計算法の開発とベーチェット病の病因解明への応用 基盤研究（C）（一般）研究分担者：竹内 二士夫教授（代表：石川 岳志鹿児島大学教授）

ベーチェット病の遺伝的要因の候補として、組織適合抗原（HLA）が考えられていますが、HLAが病態に関与する機序は明らかではありません。HLAはペプチド（短いタンパク）をリンパ球に提示する事で、体内の免疫反応と深くかかわっています。HLAがどのようなペプチドを特異的に提示するのかを調べる事は、発症や病態形成の研究に役立つと考えられます。このHLAとペプチドの反応を計算化学的に推定する事は非常に時間のかかる作業です。本研究は石川が独自に開発したHLAとペプチドとの反応を計算化学的にスクリーニングする方法を用いて、私達がベーチェット病に関連している可能性を見つけたHLAの役割や、病因ペプチドを検討する研究です。

○臨床応用を目指した骨組織における神経-血管機能の解明 基盤研究（C）（一般）研究代表者：福田 亨教授

近年の高齢化社会の進展に伴い、急増する骨関連疾患を克服するため、医療応用につながる骨代謝調節の分子機構の解明を目的に研究を行っています。

我々はこれまでに、骨内の感覚神経が骨量を正常に維持するために重要であることを見出しました。そこで本研究では、神経による骨代謝調節の分子メカニズムの解明を試みています。これまでに神経に関連する細胞で、特定の分子を機能欠損させると骨量に変化することを見出しています。今後は関連する分子の機能解明し、複雑な骨代謝調節機構の解明を目指しています。

○「エネルギー代謝と生体リズムに影響を与える脂肪酸の解明」 若手研究（B）研究代表者：矢島 克彦助教

栄養学領域からのアプローチによって睡眠を含む生体リズムの制御、そして健康増進に貢献する知見を得ることが本研究の目的です。我々は、動物のサーカディアンリズムの調節には食事の中でも、摂取する脂肪酸の“質”が関与すると仮説を立てています。仮説実証のため、ヒトを対象とし脂肪酸組成を変化させた食事摂取後のエネルギー代謝、睡眠時脳波、時計遺伝子発現および深部体温を全て同一の実験で評価する、国内・外で初の研究を試みます。摂取する脂肪酸の組成は、長鎖飽和脂肪酸と長鎖一価不飽和脂肪酸との比較から開始し中鎖脂肪酸、長鎖多価不飽和脂肪酸を含めた検討へと進展させていく予定です。生体リズムの乱れは睡眠の質悪化に繋がり様々な疾患を起こす要因となるため、本研究によって生活習慣病のリスク低減に有効な脂肪摂取のエビデンスを確立したいと考えています。

○「日本人高齢者における骨格筋量と筋血流量の関連」 若手研究 研究代表者：膳法 浩史講師

加齢に伴う筋量と筋力の減少（サルコペニア）について研究を行っています。我が国はどの国も経験したことのない超高齢社会の国です。世界中が日本の高齢化対策の動向に注目しています。この研究では、いかに高齢者が自立して健康なままで生活できるかを目標に活動しています。そのためにメカニズムが不明であるサルコペニアを解明することで高齢者の自立した生活を支援できるのではないかと考えています。具体的には、高齢者において血流量の減少がサルコペニアに関与しているのではと仮説を立てており、そのデータを蓄積していきます。

○「スポーツ傷害（靭帯損傷・筋損傷・疲労骨折）を規定する機能的遺伝子多型の解明」 基盤研究（B）（一般）研究分担者：膳法 浩史講師（代表：福 典之 順天堂大学准教授）

スポーツ傷害は競技力に対してマイナスに影響するだけでなく、時として選手生命さえも脅かすことがあります。スポーツ障害の予知として遺伝子情報が活用できるのではないかと考えています。具体的には、競技アスリートを対象として靭帯損傷、筋損傷、疲労骨折といったスポーツ傷害に関連する遺伝的要因について、全ゲノムDNAを対象とした網羅的遺伝子多型解析という手法を用いて明らかにします。既に千人を超えるアスリートのDNAを得ており、スポーツ傷害に関連する遺伝子とその機能を解明することで、個人対応型のスポーツ傷害予防法の開発に貢献することを最終目標としています。

○インド経済圏内の食品流通システムの展開方向と日本農産物の輸出可能性の究明 食品流通の研究（食品流通学研究室 藤島 廣二客員教授）

本研究の対象国はインド、ネパール、ブータンですが、私は主にインドの調査を担当しています。その中で究明できたことは少なくありませんが、興味深いと思われる2点を選びますと、一つは日本食レストランや日本食専門小売店の場合、日本からの食品の輸入については「ハンドキャリア」が意外に多いことです。要するに、本格的な輸入をするにはまだまだ需要が少ないからでしょう。もうひとつは、卸売市場で青果物の産地を確認すると中国産が多いことです。政治的には対立していますが、経済的な結びつきは強いと考えられます。

平成29年度 特別研究・共同研究発表会

平成30年7月14日（土）に平成29年度特別研究・共同研究発表会を開催しました。福田亨教授の「神経系による骨代謝調節機構におけるグリア細胞の役割の解明」を始めとした教員による特別研究2題、共同研究においては風見公子准教授らによる「反応抑制が必要な簡単なゲームを用いた摂取量の調節（男子大学生におけるプレテスト）」を始めとした9題を合わせ、計11題の口頭発表がなされ、質疑応答も活発に行われました。



平成29年度 特別研究・共同研究計画申請者一覧

代表申請者	研究別	研究課題
鈴木 三枝教授	共同	「幼稚園児の食育事業」・食育指導のための幼稚園児及び保護者の生活習慣と食習慣に関する調査（第2報）
小林 陽子准教授	共同	「食育サポーター事業 in 葛飾区」の取り組み（第5報）
風見 公子准教授	共同	反応抑制が必要な簡単なゲームを用いた摂取量の調節（男子大学生におけるプレテスト）
福田 亨准教授	特別	神経系による骨代謝調節機構におけるグリア細胞の役割の解明
大塚 静子准教授	共同	給餌方法の違いによるタンパク質ならびに脂肪摂取量がラットの腎臓石灰化に及ぼす影響について（I）-自由食給餌-
吉田 光一准教授	共同	ダリア塊根の機能性に関する研究（3）
片山 佳子講師	共同	落花生薄皮の抗がん作用
矢島 克彦助教	共同	栄養素代謝と睡眠時脳波を含む生体リズムに関する研究（飽和脂肪酸、または一価不飽和脂肪酸の介入研究）
山本 直子助教	共同	野菜の麹漬けに関する研究— 自家製べつたら漬作製時における漬け床の微生物学的検討 —
吉田真知子助教	共同	幼児を持つ保護者の食教育におけるグループ体験学習が行動変容に与える影響～継続研究～
海老澤隆史助教	特別	自然界からの酵母の単離と高浸透圧耐性および発酵特性について

※平成29年度の役職となっております。

平成30年度 特別研究・共同研究

本学教育研究取扱要項第2項及び第3項の規定に基づき、特別研究・共同研究を毎年度募集しており、申請された研究課題については、研究推進委員会において審査し採否の決定をしています。本年度の特別研究・共同研究計画申請について、以下の表の通り採用決定しました。

平成30年度 特別研究・共同研究計画申請者一覧

代表申請者	研究別	研究課題
鈴木 三枝教授	共同	幼児期の食生活習慣について
風見 公子准教授	共同	行動抑制の必要な課題を用いた条件付けによる食物摂取量の変化 —通常の場合—
大塚 静子准教授	共同	給餌方法の違いによるタンパク質ならびに脂肪摂取量がラットの腎臓石灰化を引き起こす因子アディポネクチンへの影響（II）
小林 陽子准教授	共同	食育サポーター事業 in 葛飾区（第6報）
福田 亨教授	特別	神経系による骨代謝調節機構の解明
片山 佳子准教授	共同	落花生味噌の抗がん作用
膳法 浩史講師	特別	終末糖化産物（AGEs）の体内蓄積とサルコペニア、身体活動の関連
吉田真知子講師	特別	幼児を持つ保護者の食教育におけるグループ体験学習の導入～好き嫌いをテーマとしたプログラムの実施～
海老澤隆史助教	特別	食品の発酵・熟成中における音楽振動の影響
矢島 克彦助教	特別	栄養素代謝と睡眠時脳波を含む生体リズムに関する研究（飽和脂肪酸、または一価不飽和脂肪酸の介入研究）

学生支援センターの活動

キャリア・就職データ

平成30年3月卒業生就職結果

第10期生（平成30年3月卒業生）の就職率（就職希望者比）は、学部合計で99.4%となりました。これは文部科学省集計の全国の大学卒業生の就職率98.0%（調査開始以降で過去最高）を上回り、開学以来最高値の結果でありました。学科別には、管理栄養学科が100.0%、食品学科が98.6%となりました。また、実質就職率【就職者/（卒業生-大学院進学者）】を見ると、95.7%であり、就職希望者比の就職内定率とともに開学以来最高値の結果でありました。

【卒業生数162人/就職希望者数156人/就職決定数155人/大学院進学者0人】

本学の就職活動は、学生・保護者・教員・学生支援センターの連携により行っています。卒業生の多くは学業に関連した業種職種に就職しており、卒業生が就職先で大いに活躍することを期待しています。

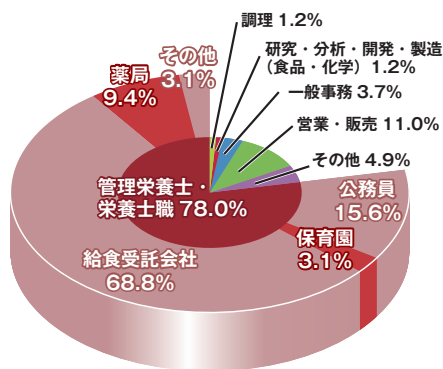
進路・就職結果

卒業生数	162人
<就職希望者数>	<156人>
就職決定数	155人

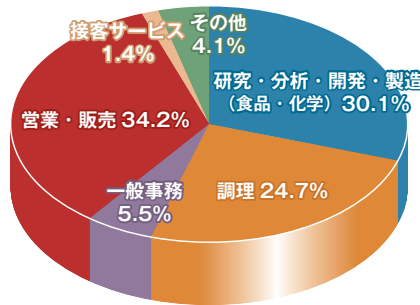
第10期生(平成30年3月卒業生)の就職状況(就職率99.4%)

●管理栄養学科(就職率100.0%)

●食品学科(就職率98.6%)



職種別就職先グラフ



主な就職先

【管理栄養士・栄養士職等】

(公務員) 栄養教諭(さいたま市)、行政栄養士(つくば市、千葉市、船橋市)、臨時学校栄養職員(葛飾区、川口市、さいたま市、和光市、山形県寒河江市)、水産庁船舶職員(司厨員)

(給食受託会社) エームサービス(株)、シダックス(株)、(株)セブン&アイ・フードシステムズ、日清医療食品(株)、富士産業(株)(薬局・ドラッグストア) (株)サンドラッグ、(株)スギ薬局、(株)マツモトキヨシ

【研究・分析・開発・製造(食品・化学)】

イニシオフーズ(株)、壽食品工業(株)、(株)サンデリカ、三協食品(株)、(株)ジョイアスフーズ、トオカツフーズ(株)、(株)虎昭産業、(株)ニッセイデリカ、(株)武蔵野、わらべや日洋(株)

【営業・販売】

(株)いなげや、(株)セブン-イレブン・ジャパン、日清医療食品(株)、(株)日本栄養給食協会、(株)日本レストランエンタプライズ、(株)マルエツ、山崎製パン(株)

【調理・接客サービス】

(株)すかいらーく、(株)東天紅、(株)ブロンコピラー、(株)物語コーポレーション、リゾートトラスト(株)

平成31年3月卒業生就職内定状況

(株)リクルートキャリア等の就職情報会社によると、今年度の大卒求人倍率は1.88倍と昨年(1.78倍)より0.10ポイント上昇しました。本学の4年次生の就職内定状況(8月31日現在)は、学部合計で84.0%と昨年度比プラス7.6ポイントとなりました。学科別には、管理栄養学科が84.5%、食品学科が83.3%でした。

しかし、まだ内定を得ていない学生も多数いるため、本学では今後も全力で就職支援を継続します。関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

地域共創・食育イベント

地域共創・食育イベント行事一覧

日時	行事
平成29年10月8日	親子で描こう夢プロジェクト
平成29年10月9日	かつしかスポーツフェスティバル2017
平成29年10月11日	地域美化プランター秋花苗植付
平成29年10月21日	新小岩駅東北ひろばまつり2017
平成29年10月29日	かつしか健康食育フェア2017
平成29年11月11日～12日	『聖栄葛飾祭』(一社)全国栄養士養成施設協会後援事業
平成29年11月11日～12日	『聖栄葛飾祭』(公社)日本フードスペシャリスト協会共催事業
平成29年11月18日～19日	かつしかフードフェスタ2017
平成29年12月4日	新小岩第六自治会との意見交換会
平成30年3月11日	第4回かつしかふれあいRUNフェスタ2018
平成30年3月22日	地域美化プランター春花苗植付
平成30年5月20日	第42回わんぱく相撲葛飾区大会
平成30年5月26日	公開講座(日本の食文化講座 健康栄養学部 非常勤講師 中西載慶)
平成30年6月17日	食育読み聞かせ会
平成30年7月28日	公開講座(シニアのための健康栄養講座・管理栄養学科 助教 矢島克彦)
平成30年8月25日～26日	新小岩駅前祭り

(一社)全国栄養士養成施設協会後援事業 (公社)日本フードスペシャリスト協会共催事業

平成29年度『聖栄葛飾祭』において(一社)全国栄養士養成施設協会後援事業として「あなたの食事は大丈夫?」、(公社)日本フードスペシャリスト協会共催事業として「日本の食品と食文化～どうなってる?～」と題して実施しました。地域住民を対象に普段の食生活における相談や食品、食文化について学生が説明を行いました。



学生支援・就職支援

学生支援・就職支援関係行事一覧

日時	対象学年	行事
平成29年10月3日・5日・10日 12日・17日	全学年	食品会社就職の為の筆記試験対策講座
平成29年10月4日	全学年	防火・防災訓練
平成29年10月18日	1年次	対象キャリア支援ガイダンス
平成29年10月19日	2年次	人生設計とワークライフバランス講座
平成29年10月26日	3年次	SPIインターネット講座
平成29年10月31日	4年次	奨学金返還説明会
平成29年11月2日	3年次	就職活動DVD上映会
平成29年12月5日	全学年	学生と学長をはじめとした教職員の意見交換会
平成29年12月7日	3年次	リクルートガイダンス
平成29年12月12日・18日・20日	1～3年次	日本学生支援機構奨学金 適格認定説明会
平成29年12月14日	3年次	グループディスカッション講座
平成29年12月21日	1～3年次	4年次生による就職活動体験講話
平成30年1月29日	1～3年次	公務員対策論文講座
平成30年2月15日・16日 19日・20日	3年次	学内業界説明会（管理栄養士関係企業・食品関係企業）
平成30年3月30日	4年次	アセスメントテスト（PROG）
平成30年4月12日	3年次	エントリーシート対策講座
平成30年4月12日・25日	全学年	日本学生支援機構奨学金説明会 （高校時予約採用者・在学採用希望者対象）
平成30年4月18日	1～3年次	公務員栄養士ガイダンス
平成30年4月19日	1年次	アセスメントテスト（PROG）
平成30年4月27日	1～3年次	食品衛生監視員希望者ガイダンス
平成30年5月17日・24日	3年次	就職模試「START」・「キャリアアプローチ」
平成30年5月29日	1～3年次	学内奨学生授与式
平成30年5月30日	1年次	アセスメントテスト（PROG）解説ガイダンス
平成30年6月14日	3年次	就職模試解説ガイダンス
平成30年6月19日・20日 7月11日	全学年	日本学生支援機構奨学金 返還説明会
平成30年6月21日	1年次	大学生活におけるマナー講座
平成30年6月27日	1～3年次	大学院進学希望者ガイダンス
平成30年7月3日・4日・5日 10日・12日・13日	全学年	学生支援センター夏期ガイダンス
平成30年7月4日	4年次	直営給食施設希望者ガイダンス
平成30年7月5日	3年次	就職活動のためのマナー講座
平成30年7月26日	1～3年次	公務員教養試験ガイダンス



4年次生による就職体験講話



学生と教職員との意見交換会



就職模試解説ガイダンス



学内奨学生授与式

学生と地元新小岩第六自治会との交流会

平成29年12月4日（月）地元新小岩第六自治会の地域住民との交流会を実施しました。年間を通じて学生が協力している新小岩駅北口周辺のイベントの反省や本学と地域住民の方々とより良いまちづくりを目的に意見交換や交流を図りました。



わんぱく相撲葛飾区大会に協力

平成30年5月20日（日）第42回わんぱく相撲葛飾区大会（主催：東京青年会議所 葛飾区委員会）が開催され、本学は、総合司会・副審・模擬店の出店（カレーライス、ハヤシライス、ちゃんこ汁）で協力しました。



公開講座

平成30年度は、日本の食文化講座（中西戴慶 非常勤講師）、シニアのための健康栄養講座（矢島克彦助教）を実施しました。どちらの講座も定員を大幅に超える応募となり、盛況のうちに終えることができました。12月には附属調理師専門学校の野口栄教員による調理実習講座「飾り包丁にチャレンジ」を実施予定です。



日本の食文化講座

学友会活動

会長挨拶



学友会会長 管理栄養学科3年次生
桑原 陸斗

今年度、学友会会長に就任しました管理栄養学科3年の桑原陸斗です。

皆様のご協力もあり、今年も学友会総会、新入生歓迎会、体育祭を無事に終えることができました。

昨年に、本学園創立70周年を迎えました。今後も本学のさらなる発展を目指しながら、「食」を通じて地域の方々との繋がりを、とても大切にしたいと考えております。

学友会は、学生にとって大学生活が素晴らしく充実したものとなるように、日々精進して活動を行いますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

学友会総会、部・同好会説明会、新入生歓迎会

平成30年4月11日（水）学友会総会、部・同好会説明会、4月26日（木）新入生歓迎会を開催しました。学友会総会において新役員の選出や平成29年度決算報告及び平成30年度予算案等の審議を

行い承認されました。部・同好会説明会では、新入生に対して各団体の活動内容の説明が行われました。新入生歓迎会では、早稲田大学のワットポール先生による特別講演が行われた後に、抽選会を行い、学生間の親睦を深め、とても有意義な機会となりました。



学友会総会



新入生歓迎会

体育祭

平成30年5月26日（土）本学船橋グラウンドにおいて体育祭が開催されました。体育祭実行委員会が中心となり、全プログラムが滞りなく実施されました。総合優勝に輝いたクラスは3Nクラス（3年次生 管理栄養学科NA・NBクラス）でした。学生間および教職員との交流を深める1日となりました。



学生FDサミット

平成30年8月28日（火）、29日（水）京都光華女子大学にて学生FDサミットが開催され、本学を代表として学友会役員3名が参加しました。大学の活動状況の情報交換やテーマについて議論を通して、他大学の学生と交流できた有意義な機会となりました。

聖栄葛飾祭

平成30年11月3日（土）、4日（日）に『聖栄葛飾祭』（大学祭）が開催されます。今年度のテーマは「食彩～食で広がる無限の輪～」に決定しました。今年度も葛飾区の後援や地元自治会の協力も得て、昨年度より盛り上がる『聖栄葛飾祭』を目指しますので、皆様のご来場を心よりお待ちしております。



（昨年の様子）

学生と教職員との意見交換会

平成29年12月5日（火）学友会主催で、学長をはじめとする教職員と学生が、大学生活全般に関する内容について幅広く意見や要望を交わし、大学生活のよりよい環境づくりを目的とした意見交換会が開催されました。大学生活等について、活発な意見交換が行われました。

平成30年度 部・同好会一覧

部名	学生代表
食品加工研究部	2017FB11 高須涼兵
調理実習部	2016NB30 廣瀬祐基
硬式テニス部	2016FB01 穴戸雅
合気道部	2015FA30 酒井渉
バレーボール部	2016NB15 戸村壮太
バスケットボール部	2016FB39 山田 柁
バドミントン部	2016FB23 濱砂 慎太郎
軽音楽部	2017FB14 田口直輝
パン部	2016FB04 島方 潮
サッカー部	2016NB35 堀 匠

同好会名	学生代表
ダンス同好会	2016NB19 新堀可純
あぐり	2017FB09 藤井香南
ソフトテニス同好会	2017NB39 渡邊海奈
フットサル同好会	2017NA10 太田光
野球同好会	2016FA04 阿部直也
聖栄ピアヘルピングワークス	2016FA29 國藤玲那
吹奏楽同好会	2016NB25 秦野真希
ボランティアの会	2017NB29 藤本瑠佳

サークル名	学生代表
カヌーサークル	2017NA01 阿久根 萌香
カバディサークル	2016NA33 風見 祐助

後援会の活動



後援会会長
野田 哲三

平成30年4月1日、入学式終了後の後援会総会をもって本年度の後援会活動が開始いたしました。後援会が円滑に活動できるのも、教職員の皆様並びに諸先輩方のご尽力と会員の皆様のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

後援会では毎秋に開催しております保護者と教職員との懇談会を始め、年2回の後援会会報の発行および学友会活動への補助、学生生活をより充実させられるよう、掲示板等の備品や図書購入などの教育助成を行っております。

今後も、学生の皆さんの学習環境の整備や、教職員の皆様の教育活動の充実、大学の発展・向上に少しでも寄与できるように、後援会活動を推し進めて参りたいと存じます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

後援会の主な活動

平成30年度

- 保護者懇談会開催 9月29日(土)
保護者と教職員の情報交換会
- 後援会会報の発行(年2回発行予定)
10月1日付
3月15日付
- 会議の開催
定期総会 4月1日(日)
役員会 6月9日(土)
3月上旬予定

聖栄会の活動



聖栄会会長
高橋 興亜

平成30年6月3日(日)東京聖栄大学において、聖栄会(同窓会)総会を開催いたしました。平成29年度事業報告、会計報告、平成30年度事業計画をご承認いただきました。今年度の重点項目としては、18歳人口が激減し大学を取り巻く環境が厳しさをましております。聖栄会といたしましても、組織の見直し、支部の拡大、分掌業務の明確化を図り、更なる母校への支援を図るべく、会則の変更を進めてまいります。会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

聖栄会の主な活動

平成30年度

- 4月 聖栄会だより発行
- 5月 体育祭への協賛
- 6月 定期総会並びに懇親会開催
- 9月 第30回食文化研究会(記念バスツアー)
- 10月 役員会の開催
- 11月 大学祭への協賛
- 1月 役員会の開催
- 3月 卒業生への記念品贈呈

人事異動 (順不同 敬称略)

教員

■昇任 平成30年9月1日付
附属わたなべ幼稚園
副園長(心得) 森川 知子

■退職 平成30年9月23日付
大学・特任教授(非常勤) 石田 東生

職員

■昇任 平成30年7月1日付
大学事務部入試・広報課長 岡田 修一
法人事務局企画調整課係長 谷内 ひろみ
生涯学習センター係長兼務
大学事務部学務課主任 富田 優里
専門学校助手兼務
大学事務部学務課主任 大野 まり菜
<課長兼務解除、分掌明示>
大学事務部次長(アドミッション担当)
専門学校事務長兼務 多田 功

■退職 平成30年6月30日付
法人事務局施設管理課係長 會田 進
法人事務局財務課兼施設管理課主任
三枝 綾子

平成30年8月31日付
大学事務部入試・広報課 早川 里子

■採用 平成30年5月21日付
大学図書館司書 鈴木 敦子

(臨時職員)
平成30年6月11日付
法人事務局施設管理課 関口 淳一
平成30年8月1日付
大学事務部入試・広報課 鎌田 亜沙美
平成30年8月22日付
法人事務局財務課 森本 むつ子

平成29年度決算報告

学校法人東京聖栄大学

本学の平成29年度末における財務の概況は、次のとおりです。

収入は、主な財源の学生生徒等納付金収入が、入学定員の確保により安定しており、経営努力による収入も増加しています。一方、支出は、人件費をはじめ、支出抑制による収支均衡を目標に財政健全化に努めており、29年度決算では、基本金組入前当年度収支差額（旧：帰属収支差額）は、390万円の収入超過（黒字）となり、7期連続で収入超過の実績を収めることができました。

1. 資金収支計算書

平成29年度の資金収支規模は、35億9,100万円となり、前年度比1億2,600万円減少しました。前年度繰越支払資金を除く当年度の収入額は21億8,700万円で、支出額は23億700万円となり、1億2,000万円の支出超過となりました。

この結果、翌年度繰越支払資金は、前年度比1億2,100万円減の12億8,400万円となりました。

資金収支計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）（単位 千円）

	資金収支計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）（単位 千円）			
	科目	予算	決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,093,806	1,094,484	△678
	手数料収入	20,082	20,328	△246
	寄付金収入	7,953	7,973	△20
	補助金収入	164,104	164,104	0
	国庫補助金収入	109,633	109,633	0
	都県補助金収入	52,125	52,125	0
	区市補助金収入	2,346	2,346	0
	資産売却収入	800,000	800,000	0
	付随事業・収益事業収入	14,364	14,165	199
	受取利息・配当金収入	44,960	44,942	18
	雑収入	91,349	91,639	△290
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	525,607	488,941	36,666
	その他の収入	18,418	19,188	△770
	資金収入調整勘定	△556,207	△559,021	2,814
	前年度繰越支払資金	1,404,128	1,404,128	0
収入の部合計	3,628,564	3,590,871	37,693	
支出の部	科目	予算	決算	差異
	人件費支出	832,179	832,043	136
	教育研究経費支出	275,309	273,423	1,886
	管理経費支出	117,687	114,831	2,856
	借入金等利息支出	1,760	1,760	0
	借入金等返済支出	12,220	12,220	0
	施設関係支出	19,967	19,833	134
	設備関係支出	67,000	66,645	355
	資産運用支出	984,597	984,617	△20
	その他の支出	22,581	24,000	△1,419
	〔予備費〕	10,000		10,000
	資金支出調整勘定	△24,292	△22,040	△2,252
	翌年度繰越支払資金	1,309,557	1,283,538	26,019
	支出の部合計	3,628,564	3,590,871	37,693

2. 事業活動収支計算書

事業活動収入は14億3,900万円で、建物、機器備品などの減価償却額が含まれる事業活動支出は14億3,500万円で、基本金組入額（7,100万円）を控除した当年度収支差額は6,700万円の支出超過となりました。（基本金組入後収支比率104.9%）翌年度繰越収支差額は4億8,400万円とやや支出超過額が増加しました。

事業活動収支計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）（単位 千円）

	事業活動収支計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）（単位 千円）				
	科目	予算	決算	差異	
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	1,093,805	1,094,484	△679	
	手数料	20,082	20,328	△246	
	寄付金	8,133	8,153	△20	
	経常費等補助金	164,104	164,104	0	
	国庫補助金	109,633	109,633	0	
	都県補助金	52,125	52,125	0	
	区市補助金	2,346	2,346	0	
	付随事業収入	11,864	11,658	206	
	雑収入	91,349	91,646	△297	
	教育活動収入計	1,389,337	1,390,373	△1,036	
	事業活動支出の部				
	人件費	849,541	837,000	12,541	
	教育研究経費	463,308	458,985	4,323	
	管理経費	125,787	122,803	2,984	
	徴収不能額等	0	0	0	
教育活動支出計	1,438,636	1,418,788	19,848		
教育活動収支差額	△49,299	△28,415	△20,884		
教育活動外収支	科目	予算	決算	差異	
	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金	43,410	43,375	35	
	その他の教育活動外収入	2,500	2,500	0	
	教育活動外収入計	45,910	45,875	35	
	事業活動支出の部				
	借入金等利息	1,760	1,760	0	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	
	教育活動外支出計	1,760	1,760	0	
	教育活動外収支差額	44,150	44,115	35	
	経常収支差額	△5,149	15,700	△20,849	
	特別収支	科目	予算	決算	差異
		事業活動収入の部			
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	2,907	2,968	△61
		特別収入計	2,907	2,968	△61
事業活動支出の部					
資産処分差額		15,090	14,751	339	
その他の特別支出		0	0	0	
特別支出計		15,090	14,751	339	
特別収支差額		△12,183	△11,783	△400	
予備費		6,000	0	6,000	
基本金組入前当年度収支差額		△23,332	3,917	△27,249	
基本金組入額合計		△49,392	△71,138	21,746	
当年度収支差額		△72,724	△67,221	△5,503	
前年度繰越収支差額		△416,553	△416,553	0	
基本金取崩額		611	0	611	
翌年度繰越収支差額	△488,666	△483,774	△4,892		

3. 貸借対照表

29年度末の資産総額は2,600万円減の98億7,400万円です。固定資産は5,600万円増の85億3,800万円になり、流動資産は8,200万円減の13億3,600万円となりました。

負債総額は、借入金返済などで3,000万円減少し、9億6,300万円となりました。

純資産は400万円増の89億1,100万円となり、財政としては良好な状況です。

貸借対照表 (平成30年3月31日) (単位 千円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	8,537,593	8,481,196	56,397
有形固定資産	5,585,753	5,704,406	△118,653
土地	1,889,400	1,889,400	0
建物	3,203,530	3,320,761	△117,231
その他の有形固定資産	492,823	494,245	△1,422
特定資産	468,631	436,538	32,093
その他の固定資産	2,483,209	2,340,252	142,957
流動資産	1,336,288	1,418,314	△82,026
現金預金	1,283,538	1,404,128	△120,590
その他の流動資産	52,750	14,186	38,564
資産の部合計	9,873,881	9,899,510	△25,629

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	384,469	391,732	△7,263
長期借入金	73,320	85,540	△12,220
その他の固定負債	311,149	306,192	4,957
流動負債	578,226	600,510	△22,284
短期借入金	12,220	12,220	0
その他の流動負債	566,006	588,290	△22,284
負債の部合計	962,695	992,242	△29,547

純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	9,394,960	9,323,822	71,138
第1号基本金	9,296,960	9,235,822	61,138
第2号基本金	10,000	0	10,000
第4号基本金	88,000	88,000	0
繰越収支差額			
翌年度繰越収支差額	△483,773	△416,553	△67,220
純資産の部合計	8,911,187	8,907,269	3,918
負債及び純資産の部合計	9,873,881	9,899,510	25,629

4. 財産目録

資産総額98億8,200万円の内訳は、基本財産56億5,700万円 (57.3%)、運用財産38億8,500万円 (39.3%)、収益事業財産3億4,000万円 (3.4%) となっており、また、負債総額9億6,900万円の内訳は、固定負債3億8,400万円、流動負債5億7,800万円、収益事業用負債640万円となっています。資産総額から負債総額を差引いた正味財産は89億1,300万円で、前年度比400万円増となりました。

財産目録 29年度 (総括表) (平成30年3月31日現在) (単位 千円)

I 資産総額	9,881,719
内 基本財産	5,656,513
運用財産	3,884,959
収益事業財産	340,247
II 負債総額	969,088
III 正味財産	8,912,631

区分	金額
資産額	
1. 基本財産	5,656,513
有形固定資産	5,585,753
土地	1,889,400
建物	3,203,530
構築物	50,892
教研機器備品	259,129
管理用機器備品	11,131
図書	171,321
車両	350
特定資産	10,000
第2号基本金引当特定資産	10,000
その他の固定資産	60,760
借地権	59,900
電話加入権	860
2. 運用財産	3,884,959
現金預金	1,283,538
定期預金	330,000
有価証券	1,750,957
差入保証金	9,084
退職給与引当特定資産	26,553
減価償却引当特定資産	432,078
未収入金	49,779
販売用品	56
前払金	2,651
仮払金	264
3. 収益事業用財産	340,247
土地	185,313
建物	137,571
構築物	263
現金預金	17,100
資産の部合計 (A)	9,881,719

負債額	
1. 固定負債	384,469
長期借入金	73,320
退職給与引当金	311,149
2. 流動負債	578,226
短期借入金	12,220
未払金	18,847
前受金	488,941
預り金	51,209
研修旅行費預り金	7,009
3. 収益事業用負債	6,393
前受金	1,296
未払法人税	97
預り保証金	5,000
負債の部合計 (B)	969,088

正味財産 (A) - (B)	8,912,631
----------------	-----------

5. 5カ年連続事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）

平成27年度から学校法人会計基準の改正に伴い平成26年度まで作成していた消費収支計算書は、平成27年度から事業活動収支計算書に替わりました。

平成25年度及び26年度の消費収支計算書並びに27年度から29年度までの事業活動収支計算書は、別表のとおりです。

2カ年連続消費収支計算書 (29年度)

	平成25年度		平成26年度		全国平均 医歯系を除く
	金額	構成比率	金額	構成比率	
収入の部	千円	%	千円	%	%
学生納付金	1,122,634	76.8	1,173,056	81.5	69.5
手数料	23,097	1.6	22,737	1.6	2.3
寄付金	10,820	0.7	10,714	0.7	3.9
補助金	157,819	10.8	147,682	10.3	12.2
資産運用	36,499	2.5	49,610	3.4	2.5
資産売却差額	11,859	0.8	21	0.0	1.8
事業収入	11,829	0.8	18,939	1.3	4.8
雑収入	87,869	6.0	16,348	1.1	2.9
帰属収入	1,462,426	100.0	1,439,107	100.0	100.0
基本金組入額	△119,019	△8.1	△229,631	△16.0	△13.6
消費収入合計	1,343,407	91.9	1,209,476	84.0	86.4
支出の部					
人件費	782,114	53.5	705,740	49.0	50.9
教育研究経費	459,266	31.4	491,096	34.1	31.2
(うち減価償却額)	(177,544)	(12.1)	(196,362)	(13.6)	(9.6)
管理経費	105,488	7.2	109,686	7.6	9.0
(うち減価償却額)	(9,066)	(0.6)	(9,739)	(0.7)	(1.1)
借入金利息	2,640	0.2	2,419	0.2	0.2
資産処分差額	13,377	0.9	18,718	1.3	1.5
徴収不能額	1,990	0.1	2,220	0.2	0.1
(予備費)					
消費支出合計	1,364,875	93.3	1,329,879	92.4	92.8
当年度消費収支差額	△21,468		△120,403		
前年度繰越消費収支超過額	△318,463		△319,678		
基本金取崩額	20,253				
翌年度繰越消費収支超過額	△319,678		△440,081		
人件費依存率		69.7		60.2	73.3
人件費比率		53.5		49.0	50.9
帰属収支差額比率		6.7		7.6	7.2
消費収支比率		101.6		110.0	107.5

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」大学法人（医歯系を除く）26年度

3カ年連続事業活動収支計算書 (29年度)

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		全国平均 医歯系を除く
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	
(教育活動収支・収入の部)	千円	%	千円	%	千円	%	%
学生納付金	1,117,494	79.8	1,114,035	80.3	1,094,484	76.0	71.7
手数料	22,666	1.6	20,280	1.5	20,328	1.4	2.5
寄付金	3,730	0.3	6,374	0.5	8,153	0.6	1.9
経常費等補助金	144,752	10.3	141,674	10.2	164,104	11.4	11.7
付随事業収入	10,605	0.8	11,814	0.9	11,658	0.8	4.8
雑収入	37,279	2.7	15,371	1.1	91,646	6.4	3.1
教育活動収入計	1,336,526	95.5	1,309,548	94.4	1,390,373	96.6	95.7
(教育活動収支・支出の部)							
人件費	718,956	51.4	724,760	52.2	837,000	58.2	52.2
教育研究経費	469,796	33.6	464,868	33.5	458,985	31.9	32.2
管理経費	107,821	7.7	115,042	8.3	122,802	8.5	8.7
徴収不能額等	4,060	0.3	667	0.0	0	0.0	0.1
教育活動支出計	1,300,633	92.9	1,305,337	94.1	1,418,787	98.6	93.1
(教育活動外収支・収入の部)							
受取利息・配当金	53,127	3.8	55,053	4.0	43,374	3.0	1.5
その他の教育活動外収入	3,200	0.2	2,700	0.2	2,500	0.2	0.1
教育活動外収入計	56,327	4.0	57,753	4.2	45,874	3.2	1.7
(教育活動外収支・支出の部)							
借入金等利息	2,199	0.2	1,980	0.1	1,760	0.1	0.2
その他の教育活動外支出	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0
教育活動外支出計	2,199	0.2	1,980	0.1	1,760	0.1	0.2
(特別収支・収入の部)							
資産売却差額	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.7
その他の特別収入	7,117	0.5	20,076	1.4	2,968	0.2	1.9
特別収入計	7,117	0.5	20,076	1.4	2,968	0.2	3.4
(特別収支・支出の部)							
資産処分差額	2,065	0.1	455	0.0	14,751	1.0	1.5
その他の特別支出	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.3
特別支出計	2,065	0.1	455	0.0	14,751	1.0	1.7
基本金組入前当年度収支差額	95,073	6.8	79,605	5.7	3,917	0.3	4.9
基本金組入額合計	△47,239	△3.4	△145,910	△10.5	△71,138	△4.9	△11.8
当年度収支差額	47,834	3.4	△66,305	△4.8	△67,221	△4.7	6.9
前年度繰越収支差額	△440,081	△31.4	△392,247	△28.3	△416,553	△28.9	△70.6
基本金取崩額	0	0.0	42,000	3.0	0	0.0	2.7
翌年度繰越収支差額	△392,247	△28.0	△416,552	△30.0	△483,774	△33.6	74.8

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」大学法人（医歯系を除く）28年度

東京聖栄大学 教育研究施設設備充実募金のお願い

本学は平成17年4月、聖徳栄養短期大学を改組して東京聖栄大学を創立以来、学校教育法及び関連法規の改正、自己点検第三者評価制度など大学改革、教育再生に関する社会の急激な変遷に対応して、着々と健康・栄養・食品の教育に関わる大学としての基盤整備確立に努力し、その成果を挙げてまいりました。

これも偏に皆様方のご支援ご協力の賜物と感謝いたしております。

本学におきましては、予てから教育研究の環境整備充実を図り、更なる高度化推進を実現するため、「教育研究施設設備充実」の寄付募金を行ってきました。

この寄付募金は財政基盤の強化の一環として、広く内外の学園関係者に呼びかけ、積極的に募金活動を実施いたしており、例年募金にご協力くださりまして誠に有難うございました。

つきましては、現在の厳しい社会・経済情勢のもとでのお願いで誠に恐縮ではございますが、何卒、ご理解を賜り、募金要綱等をご覧いただきまして、寄付募金にご協力くださいますよう衷心よりお願い申し上げます。

なお、この寄付金は、**個人の場合は**特定公益増進法人への寄付金として**所得税法による減免税措置（税額控除）が受けられます**。また、**法人の場合は**、日本私立学校振興・共済事業団の**受配者指定寄付金として、寄付金の全額を損金に算入することができます**。

募金要綱

1. 目的：教育・研究に要する経常的経費に充当するため
 2. 募金目標額：1千万円
 3. 寄付金額：1口 1万円
 4. 募金期間：平成31年3月末まで
 5. 申込書、振込方法：本学所定の用紙をご利用ください
- ◎この寄付金は任意であります。何卒ご協力くださいますようお願いいたします。
- ◎この募金は、個人の場合は所得税法により税額控除が受けられます。法人の場合は受配者指定寄付金として全額損金に算入することができます。
- 詳細については下記にお問い合わせください。
- 学校法人東京聖栄大学事務局財務課募金係 TEL 03-3692-0211(代)

募金申込状況

平成19年度から29年度までの募金申込状況は下表のとおりです。

この募金は、別口座に積み立てられ募金の趣旨に則り、有意義に活用させていただきます。

年度	申込件数	金額(円)	年度	申込件数	金額(円)
平成19年度	33	5,950,000	25年度	130	8,395,435
20年度	28	5,700,000	26年度	137	6,855,000
21年度	18	4,100,000	27年度	139	8,280,000
22年度	53	7,665,000	28年度	109	5,935,000
23年度	50	6,790,000	29年度	95	6,490,000
24年度	110	7,910,000	総計	902	74,070,435

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園だより

園長 萩原 和代

わたなべ幼稚園では園の日常保育や給食時の様子を見て頂いて、これから入園を考えているご父母に見学会を行っています。

最近とみに、手作り給食への関心が保護者の間に広がっているお話をよく伺います。

わたなべ幼稚園では開園以来家庭的な給食をめざし、手作りを大事にしております。大量調理という壁はありますが、市販の既製品は扱いません。焼売、餃子など数を必要

とする物は時間的制約や調理師の人数などで挑戦できませんが、子どもの大好きな肉だんごやハンバーグ、オムレットなどは手作りです。

とりわけ大人気なのは夏野菜カレー、マイルドカレーなどのカレーシリーズです。

カレーはルウからの手作りなので、子どもにも大人にも大好評です。



東京聖栄大学附属調理師専門学校だより

校長 阿左美 章治

4月7日に入学式を迎え平成30年度がスタートしました。調理実習ではおぼつかなかった包丁捌きも、8月の夏季休暇を前にした現在では技術試験を受けるまでに上達しています。

今報は、平成30年度の本校の事業計画にかかげている学生募集や教育の自己評価、教育実績、施設改善等についてお知らせします。学生募集については、照会の多い社会人や外国人を対象とした相談会を17時以降も開催するなど相談の機会を多くしています。

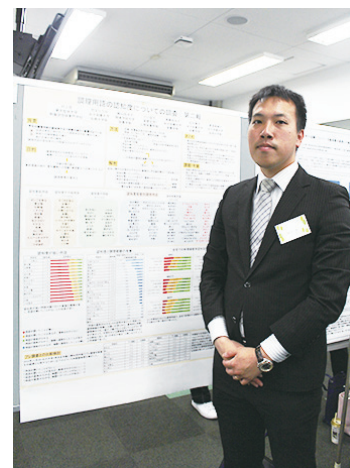
教育の自己評価は、教育目標の達成や状況把握、その他学校運営に関し、取り組みの適切性や今後の改善方策を検討する上で重要です。本校では教育方針、生徒指導、教育活動、授業計画、学生支援、就職支援を点検課題として掲げ、教員全員の教育効果の向上を目的とし、その共通認識のもと学生指導に当たっています。今年度は、昨年度実施した専任教員に加え非常勤の先生方にも意見をうかがう予定です。

東京聖栄大学との連携強化については2つの企画を予定しています。1つは本学両学科生を対象に調理技術の向上を目指した「基礎調理技術講習会」の開催です。管理栄養学科では、病院、老人福祉施設のほか受託給食会社に勤める学生がおおよそ就職の65%を占め、食品学科においては食品の開発・製造分野やフードビジネス分野での新規食品やメニュー開発などに25%の学生が就いています。両学科生

とも低学年次での調理実習や臨地実習を経てからの就職となりますので、就職しての調理現場に入るまでにはカリキュラム編成上、空白の時間が生じてしまいます。そこでこれら学生たちが仕事として、初めて調理に携わるときの不安や戸惑いを少しでも解消させられたらという思いの基礎調理技術講習会です。

もう1つは、調理師専門学校生と大学との交流の一環として、集団調理実習を実質的な大量調理の経験の場として、大学の調理実習施設と多目的ホールを使用して行うというものです。これはまだ一部検討中のところもありますが普段とは異なる給食施設での仕込み、調理、給仕（接客・ホール）にすべての学生が関わるという初めて試みの調理実習です。試験的に数回の実習を予定していますが、いつものクラス仲間だけへの食事提供以上に学内の多くの方々を対象にしますので緊張した良い実習が体験できるものと思います。

11月3日（土）・4日（日）に開かれる聖栄調理祭には現役生の頑張りや多くの卒業生の顔が見られることを楽しみにしています。



日本食育学会の第6回総会・学術大会にてポスター発表をする村上先生



大学トピックス

平成30年度 栄養関係功労者厚生労働大臣表彰



筒井 知己 教授

平成30年度 栄養関係功労者厚生労働大臣表彰を本学 食品学科教授筒井知己先生が受賞されました。(平成30年度は東京都で2名)

筒井教授は45年間の永きに亘り栄養士養成教育に尽力し、本学の発展と数多くの栄養士、管理栄養士養成のために多大なる貢献をされ、その功績が認められました。

7月28日(土)横浜市で開催された全国栄養改善大会(主催:公益社団法人日本栄養士会 共催:一般社団法人全国栄養士養成施設協会)の席上、大臣表彰を受けられました。

新小岩天祖神社例大祭に参加協力

本学は、地域共創活動として、8月25日(土)・26日(日)2日間に亘って行われた新小岩天祖神社例大祭(本祭)および新小岩第六自治会夜店祭りに参加協力を行いました。

JR新小岩駅北口広場において、吉田光一准教授が出店責任者として食品学科の調理技術研修の学生による「小松菜入り焼きそば、フランクフルト、ラムネ」を販売しました。

また8月26日(日)には、4年に1度の例大祭として「新小岩天祖神社例大祭」が行われ、女神輿担ぎに8名の女子学生が参加しました。このような祭事を通して本学学生が地元地域住民の方々と交流を深める、とても有意義な機会となりました。



平成31年度 東京聖栄大学 学生募集要項

東京聖栄大学 健康栄養学部(共学)/管理栄養学科・食品学科(募集定員は両学科とも80名)

入試区分	試験日	選抜方法
AO入試	Ⅱ期 平成30年10月6日(土)	調査書、受講感想文、面接、基礎学力検査等
一般入試	Ⅰ期A 平成31年1月24日(木)	学力試験
	Ⅰ期B 平成31年1月29日(火)	
	Ⅱ期前 平成31年2月12日(火)	
	Ⅲ期後 平成31年2月25日(月)	
	3月 平成31年3月8日(金)	
大学入試センター試験利用入試	Ⅰ期 平成31年1月19日(土)	センター試験成績(平成31、30年度大学入試センター試験成績利用可)
	Ⅱ期 平成31年1月20日(日)	
	Ⅲ期	

入試区分	試験日	選抜方法
指定校制推薦入試	平成30年11月7日(水)	調査書、面接
公募制推薦入試		調査書、面接、適性検査
専門学科・総合学科推薦入試		
卒業生子女等推薦入試		
12月入試	平成30年12月16日(日)	調査書、面接、基礎学力検査
キャリア特別入試	Ⅰ期 平成30年12月16日(日)	調査書、経歴書、面接、小論文、学力検査(化基)
	Ⅱ期 平成31年2月12日(火)	

※専門学科・総合学科推薦入試は、専門学科・総合学科卒業(見込)生選抜入試です。

※各入試の詳細は本学ホームページ又は「平成31年度学生募集要項」で確認してください。

受験相談会

10/13(土)

12/8(土)

※11月3日(土)、4日(日)は『聖栄葛飾祭』(大学祭)にて受験相談コーナーを開設します。

■開催時間:各回とも13:00~16:00要予約 ■当日の内容:平成31年度入試の概要説明、個別相談、施設見学 他

<お問い合わせ先>

入試・広報課

TEL:03-3692-0238(直通)

E-mail nyushi@tsc-05.ac.jp

発行 東京聖栄大学

〒124-8530 東京都葛飾区西新小岩 1-4-6

TEL:03-3692-0211(代)

URL <https://www.tsc-05.ac.jp/>